

命を救う税金

苫小牧市立沼ノ端中学校 二年 森原 由衣

「今日も各地で厳しい暑さとなりました」

このようなニュースを最近よく耳にする。今年の夏は例年より暑く、最高気温四十度に達した地域もある。そのため、熱中症による搬送者や死亡者が急増していて、二十九都道府県に熱中症警戒アラートが発表されている。

ところで、「救急車が有料になるかもしれない」という話題を聞いたことはあるだろうか。今の時期、特に活躍し、なくてはならない存在の救急車。日本では、救急車の運用は行政サービスのひとつとされており、その費用は私たちの税金で賄われている。なので、救急車は原則無料で利用ができる。ちなみに、救急車が一回出動するのに必要な費用は、諸経費込みでおよそ四万五千円ほどである。総務省によると、令和四年度の救急出動件数は約七百二十万件で、単純計算で三千億円以上もかかっているというデータがある。

ところが、軽症による安易な一一九番通報をしている人がいるという問題が近年深刻化している。実は、これが「救急車が有料になるかもしれない」という話題に深く関わっている。年々、出動件数が増えている救急車だが、病院へ搬送された方のうち、なんと四十五パーセントが軽症なのだ。適正に利用するだけで、千億円以上の節約ができることになる。救急車が有料になるかもしれない理由には、救急車を安易に利用する人を減らすというものがあるのだ。しかし、もし有料化されてしまうと、本当に救急車を必要としている重症者が困ることになる。本来なら助かる命も助からなくなる可能性が高くなってしまふ。特に、今のような暑い時期には、救急車を本当に必要な人として多勢いる。そのためにも、救急車の安易な利用をなくし、私たちはしっかりと税金を納め、救急車を無料で利用できる今の状態を維持していく必要があると思ふ。

今回税金のことについて調べてみて、私の税金に対するイメージが変わった。最初は、何に使われているのか知らずに、「ただただ払わされている」というマイナスなイメージが強かったが、調べていくにつれ、税金は救急車の費用や、他にも私たちの生活に役立つところで使われていることが分かり、税金によって救われる命があるというプラスのイメージを持つようになった。

きつと、税金に対してマイナスなイメージを持っている人は多いだろう。しかし、税金は大いに役立つことを理解し、国民全員で税金を納め、国を支えていかなければならない。税金は、私たち国民にとって必要不可欠なものだ。私が今、納めることのできる税金は消費税くらいだが、誰もが安心・安全に暮らせるような明るい未来のために、大人になったらしっかりと税金を納めていきたい。